

# 神の国に招かれたニコデモ

ヨハネによる福音書 3 : 1 - 17



司祭 ヨハネ 井田 泉

2023年3月5日

大齋節第2主日

上野聖ヨハネ教会にて

ニコデモという人がいました。イスラエルでは有名な教師、聖書学者、指導者でした。年齢は分かりませんが、かなり高齢のようです。最高法院（ユダヤ人の七十人議会）の議員でもあります。社会的地位があり、尊敬を受けている人です。しかし、だれにも言いませんが、心の深いところにうずくような悩みがありました。これはわたしの推測ですが、信仰的な悩みです。自分は聖書を教えているのに、礼拝を導く立場なのに、神のことがほんとうにはわかっていない。神を経験したことがない。その思いに苦しんでいました。

以前からイエスのことを聞いていて、次第に彼は、イエスが神から来られた方に違いないと思うようになっていました。ある夜、人目を避けるようにして、ニコデモはイエスを訪ねました。

「ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行うことはできないからです。」ヨハネ 3:2

身を低くして丁寧に話したつもりでした。ところがそれに対するイエスの言葉はこうでした。

「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」ヨハネ 3:3

「はっきり言っておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。」3:5

「あなたはそのままでは救われない」と言われたのと同じです。

「あなたはイスラエルの教師でありながら、こんなことが分からないのか。」(3:10)とも言われました。

そのような物の言い方は、年長の教師、指導者である自分に対してあまり失礼ではないか。不愉快でした。しかしニコデモは心の奥で感じていました。イエスは自分の急所に触れた。切に救いを求めている自分の魂の深みに触れたのだ、と。

2年3年と経つうちに、イエスの評判と影響力は非常に大きなものとなりました。それに比例してイエスを秩序破壊者として断罪しようとする動きも急激に高まってきました。ユダヤ人の議会、最高法院ではイエスを神殿冒瀆の罪で告発し、死刑にしようという方向で固まりつつありました。ニコデモは心配してこう発言しました。

「我々の律法によれば、まず本人から事情を聞き、何をしたかを確かめたうえでなければ、判決を下してはならないことになっているではないか。」ヨハネ 7:51

しかしニコデモの発言はイエス擁護と見なされ、彼は激しい

非難を浴びせられました。

やがて祭司長たちと律法学者たちが行動を起こし、イエスを逮捕しました。最高法院が招集されました。大祭司カイアファが裁判長となり、イエスを尋問しました。最高法院は全員一致でイエスを死刑と定め、ローマ総督ピラトに引き渡しました。

ほんとうは全員一致ではなかったのです。ニコデモは本心では反対だったのです。しかしそれを言い出すことができませんでした。勇気がなかった。だまっているうちに事は決しました。金曜日の朝、ピラトはイエスの死刑を執行しました。

イエスは十字架にかけられました。午後3時、イエスは息を引き取られました。

その間、ニコデモはどのような思いで時を過ごしたのでしょうか。

ニコデモが姿を現すのはその日の夕方です。ヨハネによる福音書 19 章にこう書かれています。イエスの遺体が十字架から取り降ろされたところです。

「そこへ、かつてある夜、イエスのもとに来たことのあるニコデモも、<sup>もつやく</sup>没薬と<sup>じんこう</sup>沈香を混ぜた物を百リトラばかり持って来た。」 19:39

何と彼は、重い荷物を持ってイエスの十字架のもとに現れた

のです。100 リトラとは約 33 キログラム。没薬と沈香を混ぜたものとは、イエスの遺体を包むための防腐剤です。ニコデモはイエスの体を葬るために重い荷物を持ってやって来たのでした。

イエスの葬りの準備をしながら、ニコデモの思いが溢れてきます。

ニコデモの祈りが聞こえてくるのでしょうか……

イエスさま

わたしはあなたを慕っていました。それなのに、あのとき、あなたの言葉を受け入れることができませんでした。

できることならあなたを助けたいと思ったのに、あなたを死へと追い立てる声に反対することができず、あなたを見殺しにしてしまいました。

主よ、あわれんでください。

主よ、ゆるしてください。

今、わたしはあなたのもとに参りました。あなたを葬るために、没薬と沈香を持って来ました。

どうぞ今、わたしをあなたの弟子としてください。僕としてください。

あなたが死なれた今になって、はっきりと知りました。あの時、あなたはわたしを神の国に招いてくださったのだ、と。それなのにわたしは自分の地位や体面への固執のゆえに、あな

たの招きを拒んでしまいました。

主イエスさま、古いわたしを葬ってください。もう遅いのですけれど、あなたのもとにおらせてください。……

このときすでにニコデモは新しく生まれています。すでにここで、ニコデモは神の国に入れられています。イエスを愛し、信じて従う新しい生涯が始まっています。

最初の出会いのときから、イエスは彼を神の国に招き、その後もずっと待ち続けておられました。ニコデモは葛藤の末、決意し<sup>さんげ</sup>懺悔の思いを持ってここに来たのですが、同時にイエスが彼を引き寄せてくださったに違いありません。

ニコデモはあのとき、イエスによって傷つけられました。けれどもそれは彼が神の国に入るために必要だったのです。

ニコデモを神の国に招かれた主イエスは、わたしたちを神の国に招いておられます。イエスはわたしたちを神の国のうちに生かしたいのです。

イエスはわたしたちを諦めず見捨てず、長い時間をかけて待ちつつ、わたしたちをみもとに引き寄せてくださいます。

「だれでも水と霊とによって生まれなければ……」と言われていたように、イエスはわたしたちを、洗礼の水と神の霊によ

って、神の国に招き入れてくださった、また招き入れてくださるのです。十字架のもとで、わたしたちはニコデモと共に主イエスの愛の光を受け、新しい命をいただきます。

祈りましょう。

主イエスさま、あなたがニコデモを神の国に招かれたように、わたしたちを神の国に招き入れてください。この世の価値観、恐れ、立場や体面へのこだわりからわたしたちを解放してください。みもとに引き寄せてください。十字架のもとに命と平安を得ることができますように。アーメン